

知られざる西部の歴史

昭和30年（一九五五）前後の市町村合併で青森市域は格段に広がりました。今回は、合併で青森市となった滝内村と新城村を中心に、青森市西部地区の知られざる歴史を紹介しましょう。

奥羽本線の開業と 津軽新城駅

西部地区の歴史を語る上で重要なのが、明治27年（一八九四）12月1日に、奥羽本線が青森と弘前の両駅間に開業し、併せて、新城村に新城駅が開業したことです。駅の開業は新城村の発展に大きく寄与しました。

事実、駅は明治42年設立の北部保養院や新城スキー場を訪れる人々に利用されました。北部保養院は、現在の松丘保養園の前身で、昔も今も重要な施設です。スキー場は【写真①】を見てわかるように、傾斜地を利用した簡

素なものでした。

新城駅は大正4年（一九一五）9月11日に津軽新城駅と改称されました。

現在の駅舎は、改築こそされています【写真②】。歴史のある貴重な駅舎であることがわかります。



【写真①】新城スキー場
（昭和戦前期・青森県史編さん資料）

【問合せ】

市民図書館歴史資料室

（☎ 017-732-5271）

春まつりの会場だった 三内霊園

昭和10年代に完成した滝内村の三内霊園は、青森大空襲の罹災者が眠る大切な場所です。中心街の寺院にあった墓も移転改葬されています。それゆえ、青森市中心街の寺には墓がないのです。霊園は市民にとって慰霊の場所ですが、戦後、霊園に桜が植樹されたため春まつりの会場になりました。高台にある平和塔付近から陸奥湾が眺望できたので、合浦・野木和両公園とは異なる魅力がありました。また、墓前で先祖と一緒に花見ができることも、評判がよかったです【写真③】。

昭和35年（一九六〇）に三内温泉ヘルセンターが開場して以降、霊園は花見と温泉を組み合わせた行楽地として有名になりました。青森市営バスだけでなく、弘南バスも停留所を設け



【写真②】津軽新城駅（昭和40年代・『日本の駅』より転載）



【写真③】三内霊園で花見
（昭和35年5月・川村昭次郎さん撮影・川村英明さん提供）

トピックス
お知らせ
健康元氣
情報広場
タイムトラベル



【写真④】西高専用列車と登校する女子学生
(昭和40年代・藤巻健二さん撮影・提供)

たので、弘前市や五所川原市、そして黒石市からも多くの人々が集まりました。しかし、現在の三内霊園は春まつりの会場ではなくなりました。

西高専用列車があった頃

戦後の西部地区は市町村合併を挟んで、色々な歴史を刻み続けています。

昭和26年(一九五二)には滝内村が青森市と合併しました。

その頃から数年かけて、滝内地域の浪館地区に陸上自衛隊青森駐屯地が建設されました。駐屯地の建設に伴い、浪館通りは整備拡張され、周辺も住宅街になりました。

昭和30年に新城村が青森市と合併して以降、青森市の西部地区にも県立高校ができました。昭和38年に開校した青森県立青森西高等学校は当初女子校でした。ところが当時西バイパスはなく、国道7号も狭く、脇道の市道は未舗装でした。

開校の翌年から、多くの女子学生が通学する環境を整えるため、奥羽本線の青森駅発、津軽新城駅着の各駅停車列車が運行されました。まだ新青森駅がなかったため、1駅区間だけの運行でした。

列車は誰でも乗車できたのですが、ほぼ西高の女子学生が利用したので西高専用列車と呼ばれました【写真④】。車内は華やかで、にぎやかだったことでしょう。

鉄道の時代から 自動車の時代へ

昭和40年代以降、西部地区にも自動車社会が到来します。

昭和44年(一九六九)から西バイパスが建設され、3年後には一部で使用を開始しました。奥羽本線は昭和46年10月1日に、鉄道の動力が電気になりました。

昭和49年5月には沖館のフェリー埠頭が完成し、8月に運用を開始しました。昭和54年9月には東北自動車道の青森インターチェンジが完成しました。西部地区にフェリー埠頭から西バイパスを通り、東北自動車道へとつながる高速道路網ができたのです。

自動車社会の到来を決定付けるように、西部地区への玄関口である古川跨線橋の拡張が平成5年(一九九三)11月に完成しました。

跨線橋の渋滞緩和のため、昭和57年より整備を始めていた青森ベイブリッジも、平成4年に片道で暫定開通し、2年後に全線開通しました。

明治期以来、青森市の発展に大きく寄与してきた青森駅の頭上を自動車道が横切ったのです。これは鉄道時代の終わりと、自動車時代の到来を象徴する出来事でした。

新幹線時代の到来 — 進化し続ける西部地区

東北新幹線の開業以来、青森市内への誘致が目指され、昭和61年(一九八六)11月1日に奥羽本線の新青森駅が完成しました【写真⑤】。それから20年以上が経過した平成22年(二〇一〇)12月4日、新幹線が新青森駅へ到来しました。

西部地区は新幹線の到来が現実的になるのに伴い開発が進みました。今後、新幹線は新函館北斗駅へと延伸されますが、西部地区の歴史はまだまだ進化することになりそうです。

(元『新青森市史』通史編執筆協力員 中園 裕(県庁県史編さんグループ))



【写真⑤】新青森駅の落成式
(昭和61年11月1日・青森県史編さん資料)